

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

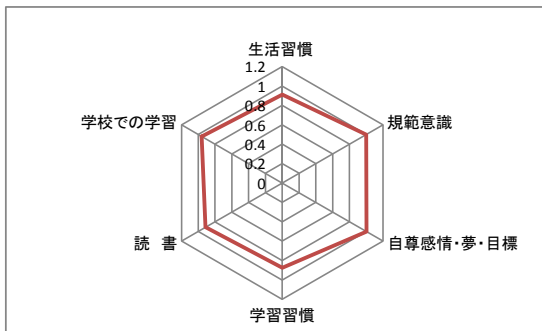
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っているが、読むことや聞くことに関する問題で、全国との正答率の差が小さく、無回答の生徒の割合も少ない。書くことの問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	文脈の中における語句の意味を理解する問題や歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題が全国との平均正答率の差が小さく、無回答率が低かった。	
	努力が必要な問題	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くや互いの発言を検討して自分の考えを広げる問題は正答率が低く、無回答率が高かったため、努力が必要である。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っているが、読むことに関する問題で、全国との正答率の差が小さく、無回答の生徒の割合も少ない。書くことに関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	全体的に全国平均生徒率を下回っているが、目的に応じて必要な情報を読み取る問題で、全国との正答率の差が小さく、無回答の生徒が少ない。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章を要約するや本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題で正答率が低く、無回答率が高い。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っている。数と式の領域では正答率が低く、無回答率が高かったが、図と形の領域では全国平均正答率を上回る問題もあったし、無回答率も低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	数学的な技能及び数量や図形などについての知識・理解に関する問題で、全国平均正答率を上回る問題があった。	
	努力が必要な問題	数量の関係を文字式に表したり、等式の性質を用いて目的に応じて文字式を変形したり、数量関係を捉え比例式を作るなどの数学的スキルを問う問題で、正答率が低く、無回答率が高い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っている。問題形式が選択式の場合は選択肢がヒントとなり、無回答者がなく、全国平均正答率を上回る問題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	関数の領域の数学的な見方や考え方の問題や図形の領域の数学的な技能の問題でも、選択肢をヒントに回答できるので、無回答者がなく、全国平均正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	問題形式が記述式の問題は無回答率が高く、全国平均生徒率を下回る問題が多い。数学的な技能や数量や図形などについての知識・理解の基礎・基本の習熟とその応用について努力が必要である。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校のきまりを守っている等の規範意識を持っている生徒は全国と同じくらいいる。</li> <li>○将来の夢や目標をもち、将来人の役に立つ人間になりたいと思う生徒は全国よりも多くいる。</li> <li>○学習習慣については、望ましい学習習慣が身につけているかについては全国を下回っており、家庭学習の充実で課題がある。</li> <li>○授業の「めあて」や「振り返り」ができていない生徒は、全国を上回っているが、思考力・判断力・表現力を身につける学習には課題がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>◎指導力の向上を目指して、全教員が年間1回授業を公開し、参観・協議する。・「めあて」や「まとめ」の提示の徹底。・生徒たちが、主体的に活動する場面を作り、話し合い活動・発表活動をする等して、言葉の力を高める。・評価規準を明確にして、生徒の状況を細かく確認する。</li> <li>◎基礎・基本の定着・朝自習や帰りの会、放課後等、学力向上のための特設時間を設定し小テスト・コンクール等を行う。</li> <li>◎書くことの習慣化・ノート指導を行い、質の高いノートを紹介したり、賞賛や励ましのコメントを記入したりする。・毎時間の授業のまとめや学校行事の後、必ず感想や学んだことを書いて整理する。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>◎家庭学習の取組の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト前 2週間前に配布される「試験範囲表」に、次のような学習のポイントを「二島中 家庭学習の目安5か条」として記載し、意識して学習に取り組ませる。1.テスト前に、できるようにしておくべきこと、2.テスト直に、仕上げておくべきである課題、3.今回の範囲のノート整理のポイント、4.今回の範囲の最も大事な内容、5.基本的な勉強の仕方・評価の基準等を各教科から示し、家庭学習として、具体的に何をすべきか分かりやすく提示する。・「1週間の宿題記録シート」等を活用し、各教科から出される宿題の量や内容を生徒・教師共に把握、確認し宿題の提出の徹底を図る。・家庭学習チャレンジ・ハンドブックを活用し、家庭学習について指導する。また、家庭にも通信等を使って、理解と協力を得る。</li> <li>◎テストや学力検査から見られる課題を全教員、保護者に周知し、理解と協力を得る。</li> <li>◎学校通信、HP、PTA理事会、家庭教育学級、学年懇談会等の中で、保護者に説明し、家庭との連携を図る。・小中連携担当を中心に学習の仕方の連携を図る。</li> <li>◎本校生徒会作成の「ケータイ・スマホ使用の5か条」の周知を図り、生徒会活動の一貫として生活習慣の改善に取り組む。</li> </ul> </li> </ul>
--